

漢文 読みの重要語 まる見え1枚シート

再読文字・置き字・返読文字・頻出訓読語 — 漢文を「読める形」に直す道具がこの1枚に全部そろっています。まずはここから。

★★★ 入試超頻出

★★ よく出る

★ 余裕があれば

💡 覚え方

▶ 例文

① 再読文字 (2回読む)

② 置き字 (読まない)

③ 返読文字 (下から返る)

④ 頻出訓読語 (読み方の決まり)

まず「2回読む字」「読まない字」「返って読む字」の3種を見分けられれば、白文が一気に読めるようになります。

読む順：左の列を上から順に ▶ 終わったら 右の列へ (見出しの番号が順番です)

1 再読文字 — 1字を2回読む

同じ字を、まず副詞として読み (上から)、もう一度動詞・助動詞として読みます (下から返って)。書き下しのとき2回目だけ平仮名にするのがルールです。

字	頻出	読み (型)	意味・訳し方
未	★★★	いまだ～ (せ) ず	まだ～していない
將・且	★★★	まさに～ (せ) んとす	今にも～しようとする・～するつもりだ
当・応	★★★	まさに～べし	当然～すべきだ (当) / きっと～だろう (応)
宜	★★	よろしく～べし	～するのがよい・～したほうがよい
須	★★	すべからく～べし	ぜひ～すべきだ・～する必要がある
猶・由	★★	なほ～ (の/が) ごとし	ちょうど～のようだ (再読=比況の助動詞「ごとし」へ返る)
盍	★	なんぞ～ (せ) ざる	どうして～しないのか=～すればよいのに (勧誘・反語)

💡 「未・將且・当応・宜・須・猶由・盍」の7つだけ覚えれば再読文字はOK。語呂は「みしょうしょとうおうぎすゆうゆこう (未/將且/当応/宜/須/猶由/盍)」。

💡 2回目の読みは決まっている = 「ず・んとす・べし・べし・べし・ごとし・ざる」。1回目 (まさに・よろしく等) とセットで丸暗記。

▶ 例文 (未): 未(いまだ)嘗(かつて)有(あら)也 → いまだかつて有らざるなり (まだ一度もなかった)。※「ず」は再読文字「未」が担う

▶ 例文 (人当): 人当(まさに)勉(つと)学(むべ) → 人はまさに学に勉むべし (人は当然学問に努めるべきだ)。※「当」は「まさに～べし」と2回読む

2 置き字 — 書いてあるが読まない字

読みはつけませんが、文の中で役割 (意味) は持っているのが置き字です。「読まない=意味がない」ではない点に注意。

字	頻出	位置	はたらき (読まないが意味は残る)
▼ 文中で関係を示す置き字			
於・于・乎	★★★	名詞の前	場所・時 (～に・～で) / 比較 (～より) / 受身 (～に～られる) / 対象 (～を・～に) の目印
而	★★★	用言 (動詞・形容詞) の間	順接 (～て・そして) / 逆接 (～のに・しかし) をつなぐ。前後の意味で順接か逆接かを判断
▼ 文末・句末の置き字			
矣	★★	文末	断定・完了・強調の語気 (「～た・～なのだ」のニュアンス)。読まない
焉	★★	文末	断定・強調の語気。※文中・文頭で「いづくんぞ」と読む場合は置き字ではない
也	★★	文末 (時に文中)	文末では断定「～なり」と読むのが原則 (読まずに置き字とする例は限られる)。文中の「也」は提示・主語の切れ目を示し読まないことが多い

💡 置き字の代表は「於・于・乎/而/矣・焉」。語呂「おうこ・じ・いえん」。読まないが、訳には意味 (場所・比較・受身・順接逆接・断定) を必ず反映させる。

💡 「也」は注意: 文末の「也」は多くは「～なり」と読む断定の語。すべてが置き字ではない。「於・而・矣・焉」と同じ感覚で必ず消さないこと。

💡 「於」が出たら直後の名詞をチェック → 比較 (～より) か受身 (～に…られる) か場所 (～に・で) かを必ず見分けるのが入試の急所。

▶ 例文 (比較): 青、之を藍より取りて、藍よりも青し (出典: 荀子・勸学/青取之於藍、而青於藍) → 「於」は「～より」の目印。読まない

▶ 例文 (受身): 勞力者治於人 → 勞力する者は人に治めらる。「於」が受身を示す (読まない)

▶ 例文 (而): 学而時習之 → 学びて時に之を習ふ。「而」は順接、読まない / 人不知而不慍 → 人知らずして慍みず。「而」は逆接寄り)

3 返読文字 — 下から返って読む字

下の語を先に読み、その後この字に返って読む字。レ点・一二点がつく目印になります。否定・受身・使役・比況・可能などの助動詞的な意味を担います。

分類	字	頻出	読みと意味
▼ 否定 (最重要)			
否定	不・弗	★★★	～ず (～しない)
否定	無・莫・勿	★★★	～なし (存在しない) / 勿・莫は「～ (する) なかれ」(禁止)
否定	非	★★★	～にあらず (～ではない=体言の否定)
▼ 存在・可能・受身			
存在	有	★★★	～あり (～がある・いる)
可能・許可	可	★★★	～べし (～できる・してよい) / 可～乎・豈可～は反語
受身	見・被	★★★	～ (せ) らる (～される)
▼ 使役・起点・比況・難易			
使役	使・令	★★★	～をして～ (せ) しむ (～に～させる)。遣・教も同類
起点	自・從	★★	～より (～から)
並列・比較	与	★★	～と (～と一緒に) / A与B=AとB
比況	如・若	★★	～のごとし (～のようだ) / 如A=Aのようだ。「不如・不若」=～に及ばない
受身の枠	為	★★	～たり・～なす・～のために / 為A所B=AにBされる (受身)
受身の枠	所	★★	～ (する) ところ / 所B=Bするもの・こと。「為A所B」で受身 (AにBされる)
難易	難・易	★	～ (し) がたし・～ (し) やすし
多少	多・少	★	～おほし・～すくなし

💡 返読文字は「下を読んでから上に返る」字。否定 (不・無・非)、受身 (見・被)、使役 (使・令)、比況 (如・若) の4グループだけは即答できるようにする。

💡 「尽 (ことごとく)」は副詞で上から読む語 (返読文字ではない)。④の頻出訓読語で覚える。

▶ 例文 (使役): 使(しむ)民(たみ)戰 → 民をして戦はしむ (民に戦わせる)。「使」は下から返って「しむ」と読む

▶ 例文 (受身): 為(る)人(ひと)所(ところ)笑 → 人の笑ふ所と為る (人に笑われる)。「為A所B」で受身

4 頻出訓読語 — 読み方が決まっている重要語

形は同じでも読み (送り仮名) で意味が変わる語。読み分けが入試で問われます。

語	頻出	読み	意味・訳し方
所以	★★★	ゆゑん	理由・わけ (～する理由)。文脈により「手段・方法」を表すこともある
可以	★★★	もつて～べし	～することができる・～してよい
与に	★★	ともに	一緒に・～と共に
相	★★★	あひ	互いに / (動作が一方に及ぶ) ～してくる・～してさしあげる
毎に	★★	ごとに	～のたびに・いつも
自ら	★★★	みづから/おのづから	みづから=自分で/おのづから=自然と (読み分け頻出)。「自」は「～より (から)」と読む別用法もある
悉く	★★	ことごとく	すべて・残らず (=尽く・皆)
徒に	★★	いたづらに	むだに・むなしく
蓋し	★★	けだし	思うに・たぶん・おそらく
夫れ	★★	それ	そもそも・いったい (文頭で話を起こす語)
嘗て	★★	かつて	以前・かつて (過去の経験)。「未嘗」=いまだかつて～ず
安くんぞ	★★★	いづくんぞ	どうして～か (多く反語。焉・悪・寧も同読)
已	★★	やむ/すでに / のみ	已む=終わる・やめる / 已に=すでに / ～のみ (限定)。読み分け注意
能く	★★★	よく	～できる (能力・可能)。「不能」=～できない

💡 「自ら」は2つの読み — みづから (=自分で/意志) とおのづから (=自然と/ひとり) で。文意で判断する超頻出ポイント。

💡 「安くんぞ・いづくんぞ」が出たら、ほぼ反語「どうして～か、いや～ない」。疑問か反語かは文末 (～や/～ん) で見分ける。

▶ 例文: 所以(ゆゑん)遣將守関者 → 將を遣はして関を守らしむる所以は… (～する理由は)

▶ 例文: 燕雀安(いづくんぞ)知鴻鵠之志哉 → 燕雀いづくんぞ鴻鵠の志を知らんや (小鳥にどうして大鳥の志がわかろうか、いや、わからない=反語)

5 見分け方の総まとめ — 「読まない字」と「返る字」

💡 読まない字 (置き字) の見分け: 「於・于・乎/而/矣・焉」がその位置に来たら原則読まない。送り仮名がつかず、レ点・一二点の対象にもならないのが目印。

💡 返る字 (返読文字) の見分け: 不・無・非・有・可・見・被・使・令・自・從・与・如・若・為・所・難・易・多・少は、下の語を読んでから上に返って読む。返り点 (レ点・一二点) が必ずつく。

- 而=用言 (動詞・形容詞) の間であれば置き字 (読まない)
- 於・于=名詞の前であれば置き字。意味 (場所・比較・受身) は訳に反映
- 矣・焉=文末であれば多く置き字。ただし也は文末でも「なり」と読むのが原則
- 否定 (不・無・非) =必ず下から返って「ず・なし・あらず」
- 受身 (見・被) / 使役 (使・令) =下の動詞を読んでから返る
- 同じ字でも読む場合あり: 焉は文中・文頭で「いづくんぞ」と読む/也は文末で「なり」と読むのが原則。位置と文意で判断

💡 3種の合言葉: 「再読=2回読む (未・將且…)」「置き字=読まないが意味あり (於・而・矣焉)」「返読=下から返る (不・使・如…)」。この3つを見分けられれば白文が読める。